

20 うちの土ではどう作る？

完全な専売制度の中で培われ、典型的な契約栽培体系で行われているタバコ栽培。

その中で、自ら土壌管理の重要性に着目し力を注いできた結果、ライト化するタバコ葉の需要に余裕をもって対応されている福島県西白河郡・小磯栄治さんの場合



入念に管理された作土層は、その下の土層と大きな物理性の違いを見せる。畑に掘った穴の側面を軽く削っただけで、その境界が明瞭となっている。写真（上）



植物には表層の肥料を吸う根と、それ以外の植物全体を健康を保つ根とがある。表層の根のみに着目しては、採算性のある栽培管理に繋がっていない。植物全体を健康に導く根を育てる土壌管理とは、最終的に基盤整備の問題となる。

関 タバコは嗜好品ですが、流通も含め他の作物とは違う特殊性があると思います。どういった点が大きな違いでしょうか。

小磯 例えば野菜は、市場での値段がそのつど変わります。タバコの魅力は、年に一度、8月の終わり頃、審議会有ってそこで値段が決まることです。私はタバコを作り始めて12年になりますが、今では、これだけ作ればこれだけの金額になるなどというのが、80%位分かりますようになりました。

関 収穫にはどんな機械を使われているのですか。

小磯 タバコ用管理作業車で、防除、収穫を行います。収穫といっても、機械が収穫するのではなく、機械に乗って収穫するのですが、この機械を入れてから収穫が楽になりました。ないときは、30 cmのところの下葉を取る時に、畝にこごまつて仕事をするので腰がひどく疲れました。

関 定植数は1反当たりどのくらいで



小磯栄治さん

福島県西白河郡矢吹町うち202
☎0248-42-4737

すか。

小磯 基準がないんです。115×32 cmだと2600株作れるのですが、うちの場合は乗用トラクタでやっているの、それより間隔が大きくならざるを得ないのです。畝間が127×128 cm、株間が33 cmになる。そうすると、2500株くらいになります。

関 移植機は。

小磯 移植機だと、ちょうど33 cmにならないのです。ギアチェンジでコントロールされているのですが、31 cmの次は35×36 cmとなってしまう。それに移植機は、2人でやっている時はいいのですが、うちのように4人だとかえって手でやった方が速いのです。

関 播種から定植の苗にするまでには、どのくらいの時間が掛かるのですか。

小磯 種まきが3月10日頃。地床に直播します。葉が3〜4枚になった頃間引き等して、ポットに仮植します。そして4月22日頃に移植します。

関 収穫の時期はいつ頃でしょうか。

小磯 6月の15日頃から9月1〜2日頃までです。日本たばこでは、8月中旬に終わらせると言うのですが、家族労働です。9月に入ってしまうのです。しかしその頃だと、タバコの上の方の葉は葉肉が付いています。9月に入って風も冷たくなると、葉肉のある葉は青いまま残ってしまい、品質の悪いものになってしまうのです。下の方の葉も、収穫を遅らせていくと、腐ってしまい、収量的にもダウンします。ですので、8月一杯には終わらせようとはしているのですが。

関 土の話になりますが、タバコの場合、排水の善し悪しが決定的な要素としてあるのではないかと思うのですが。

小磯 その通りです。排水については、スガノ農機さんの影響もあって、ここ5年位から本気で考えるようになりました。タバコはわりと好気性、つまり、土壌に水分が多いと生育が悪く、病気が出やすくなるのです。疫病、立ち枯れ病は、湿気るようなところではどうしても出ますね。

関 2 m近くなるものを支えるわけですから、当然それを支えるだけの根が必要になる。そして、それだけの根を維持するには、酸素が土に入っているか

ないといけない。

小磯 うちの場合は、35 cm位のマルチですので、肥料が入っていくのは20 cm位のところに集中します。タバコは浅根性と言われていますが、日本たばこのデータによると、根が土中2 m近くまで入っているものがあるということでした。

関 色々見てくると、むしろ肥料を吸う根はどうにでもなるという感じがしているのです。それ以外の根がきちんとできていないと、全体の生育がうまくいかない。肥料や表層の根のことは、機械化体系の問題となります。全体を健康にする根をどうするかということは、機械化体系の問題となります。

小磯 うちの場合は、9月に終わるとすぐ堆肥をマニアスブレッダで散らします。その後、サブソイラを50 cmにかけて、プラウで反転します。土にはかなり気を使って仕事をしています。クローラを入れました。自分自身、重機に乗っていた経験があるものですが、クローラには違和感はなかったのですが、「何だこれ」と言われたりして。ホイールタイプのトラクタで歩くとその部分だけ碎土されていないのが分かるのです。クローラはそれが全然なくきれいに行く。毎年重機は掛けてい

ます。畑の勾配を直してみたり、ひどいところは、表土を削って直したりもしました。

関 自分でできれば一番。基盤整備ができていないと、畑は職場という風になつていかないですよ。

小磯 くやしい思ひはしたくないので、ここが悪いと思えばそこを直します。そうすれば8割がたは直るものです。

関 排水と作土層が大事なのだと思ひ

ます。タバコの場合、肥料に神経質になるよりも、まず、物理性が大切なのではないでしょうか。施肥の体系はどのようにされているのでしょうか。

小磯 元肥一本です。前は追肥をやつたのですが、そうすると木が暴れるし、あおくなつたまま出荷するようになってしまふ。肥え切れがして、葉があおから黄緑に変わると、乾燥した時、よい色合いで香りのよいタバコができるのです。

関 それでは、ますます排水性とか土層がよくないとできないですね。

小磯 そうです。

関 何年もやっておられるから、土でなんとかと考えられるようになる。初めは誰でも肥料で何とかしようとするものです。

小磯 そうですね。冬期間整備をする。だから、冬期間務めに出る他の人たちと同じものは作りたくない、というプライドを持ってやっています。



高架型自走管理作業車

圃場・改善のポイント／土のしくみ・はたらきを知る

タバコ栽培

公共の空間に「禁煙」の表示が増える一方で、自販機の中でもタバコはより品数を増やして、その購買意欲を刺激しているようです。

作物の中でも嗜好性の強いものや、完璧な嗜好品となるものは、ややもすると異質とみなされ、食べ物を作るのが農業だ、と主張されがちです。健康というのは全ての balan

スであり、バランスは体と心の両方がうまく、つり合つて成り立つものであり、その心の安静に役立つものであるならば、当然必要なものということになるわけです。

コーヒー、茶の類、タバコ等々、私達のまわりには多くの嗜好品があり、摂取の量や方法を誤ると害になるのですが、適度の範囲であれば、ス

トレス解消、心の安静につながる大切な農作物です。

今回取り上げるテーマは、タバコ栽培です。専売制度の中で作られてきた典型的な契約栽培、その良い面と弊害の部分も現場の問題だけでなく考えてみたいと思います。

まず、この作物の特性は、畑作物の中でも特に湿害を嫌い、根に酸素の供給を必要とするものということです。

このため慣行的に、畝を高く立て、そこに定植するといふものです。

湿害回避によく高畝栽培が

実行され、もちろんそれは効果があるのですが、この畝も、その下層部の透水、排水、膨軟ができていないと、単に畝立てをしただけでは、うまくありません。

それと、畝立て作業のタイミングもあります。土壌水分が多く、土を練り返すような時に、無理な作業をしてしまふのは、形だけの畝でありその後の生産の支障となります。

この点、小磯さんは徹底して、地下排水に気を使い、サブソイラー耕を行うことにはじまり、トラクタもホイルト

イプからクローラタイプに変え、またプラウ耕による耕起と、畝立て作業を春先、雨の多い時期とはいえ、なるべく土壌水分の少ない時に行い、畝を無理に固く締めてしまわないような方法等、基本を忠実に実行しているということでした。

この体系内に冬期の堆肥散布が加わり、まさに、語れば簡単、実行は難しいということとを裏付けるように、周囲の人との差は歴然としていました。

小磯さんのタバコは、全体

番号	調査地点		福島県西白河郡矢吹町田内202					耕作者		小磯栄治		
地目	畑		傾斜		平坦			地形		標高		
天候			地質及び岩石母材			花コウ岩			調査者		関 祐二	
の有効土層の深さ	作土の深さ	土壌断面図	厚さ・層界	土性	土色	礫	腐植	硬度	透水性・通気性	湧水面	植物根の分布状況	備考
10	-	-	-	L	7.5 YR 4/3	なし	あり	6 6 3				花コウ岩の風化土にしては、年代を経ている。 排水性が極めてよい。
20	-	-	-									
30	-	-	-	L	7.5 YR 7/6	なし	なし	20 20 20				
40	-	-	-									
50	-	-	-									
60	-	-	-									
70	-	-	-									
80	-	-	-									
90	-	-	-									
100	-	-	-									
作物の生育状況		優 良						障 害の発生状況		な し		

の揃いがよく、葉色も無理に肥料で追いかけてある感じではない健全な緑色でした。

基本に忠実というのは、農業ではそれを理解することから実行まで、かなりの道のりがあるということです。

この点、農業指導の仕方に大いに問題ありということ、繰り返し原理原則を伝えるという地味な仕事を、辛抱強く

続けていかななくてはいけません。

タバコ栽培は、長年続いた典型的な契約栽培であり、この指導、生産資材の供給、作業機械化体系の工夫などが、全ての面に表れることとなります。

このタバコほど、種の一から完成した商品の販売までが、一連の組織体系になって

いるものはないにも拘わらず、最も大事な土壌管理には今一つ、力が注がれていないように感じました。

小磯さんの土への取り組みは、タバコ生産者の中では、特異的であり、大変優れているのですが、これを優秀事例として捉え、生産グループとして研修していくような動きは少ないようです。

このことの表れが、タバコの需要の変化への対応です。

顧客の求める内容がライト化、つまり、ニコチン・タール分の少ない葉が要求されているのですが、この目的を果たすためには、生育の後半に窒素がうまく自然に切れていくような栽培にならないといけません。

これは単に追肥の加減をすればいいということではなく、肥料の調整だけで、後半の生育そのものが劣って収量の低下を招くだけで、品質的にニコチンやタールの少ない軽い味のタバコにはなっていないようです。

そして、収量を保つために、

肥料を多く施すと、今度は遅^{おそ}出来の状態になってしまい、後半に葉が旺盛な生育をしてしまうために、窒素の多い、ニコチン・タールの多い葉になってしまふということです。

つまり、肥料を施す時期や量に対する調整ではうまくいかないということです。

このために何をしたらよいのか。それは、深い土層を作り、根を深く張らせて、そこに堆肥からの緩やかな肥効により、草型のしっかりした状態にもっていき、少なめの追肥により収穫期の葉のあがりをうまくやっていく、ということのようです。

これがライトタイプの葉タバコを作る基本ということですが、これは全ての作物栽培の基本でもあります。

さて、今回は契約栽培の元祖ともいべき作物の現場を知ったのですが、これこそ、実は養液土耕がまさにピッタリの作物と痛感しましたが、実際には、JTという発注者の指定以外の栽培法は採用できないということのようです。

契約栽培も、その舵取り役がかなり柔らかな思考ができないと、生産組織そのものが、先端技術から遅れることになってしまふ可能性が強いということ。

波風の立たない半公務員集団になってしまふことのないように、契約栽培が逆に知恵や力を生み出す足かせにならないようにしていくためにも、安定的な集団ほど外部との接触が必要ということになるのでしょう。

小磯さんも、かつて農閑期に土木工事に関わり、クローラの利点を理解していたことがクローラトラクタの導入になり、また土木工事の体験が、自分で畑の基盤整備を実行することにつながったわけです。その意味でも米の専作地、あるいは、多くの作るだけで後の心配はしなくてよいと思っている人ほど、実は、他の作物や、農産物流通の実態に触れることが大事と考えます。